

# 武田氏三代



武田信虎

## 武田信虎 (1498~1574)

甲斐の国守護、幼名五郎、元服（成人）して信直、後に信虎を名乗る。

わずか14歳で武田家の当主となり、在地の有力な武士たちの反乱をことごとくおさえ、甲斐を統一する。

館を川田からつつじが崎に移転し、城下町に家臣を居住させ、基幹道路等を設定して計画的な都市づくりを行い、戦国城下町「甲府」を開創した。国外に進出し勢力を拡大したが、長男の信玄と対立し、駿河に追放される。

## 武田信玄 (1521~1573)

甲斐の国守護、幼名太郎、元服して晴信、仏門に入って信玄を名乗る。

父信虎を駿河に追放するクーデターを敢行し、武田家当主となる。

戦国時代最強といわれた武田軍団を率い、領国を拡大する。ライバル

の越後上杉謙信と信州川中島で五度の合戦をする。

釜無川に信玄堤を築き、新田や金山の開発をすすめる、交通網を整える

など民政に力を注いだ。

京都へ上る軍を起こしたが、病気のため甲府への帰路の途中、信州駒

場で死亡。



武田信玄



武田勝頼

## 武田勝頼 (1546~1582)

信玄の第4子。戦国武田家最後の主。

母は諏訪頼重の娘。元服して諏訪氏を継ぎ、諏訪四郎勝頼を名乗る。

信玄の死後、遺言により父の喪を秘して武田家を継ぐ。

長篠の戦で織田・徳川の連合軍に敗れて、たくさんの将兵を失った。

また、甲府のつつじが崎の館から七里が岩の上の新府城に移転するが、人心を掌握できず、武田氏は滅亡した。